

ウズベキスタンコロナ現状

一般市民生活への影響

初確認

ウズベキスタンで初の感染者は3月15日フランスから帰国者に確認された。首相が委員長を担うコロナウイルス特別委員会が設立され段階的に政策を実施した。感染確認後水際対策として国際便運航の停止、出入国の制限を行った。

水際対策

初感染確認後、入国の制限、町中の移動の制限、公共交通機関の運航の停止、門限付きの移動許可、曜日別の制限など実施してきた。また外国から入国者を対象に全面的隔離を実施した。世界でも初と言われている1万5千人を収容できる隔離施設を建設したり、感染者の国内の広がりを防止した。

特徴的なのはウズベキスタンで隔離期間中の14日間、そして治療は全て国家負担であることである。上記のような政策を素早く打つことができたのは感染者当方の広がりを抑制した。また死者も感染から3ヶ月は世界的に見ても低い水準で保つことができた。しかし様々な政策が取られたにも関わらず、感染者はタシケントをはじめ、他の州にも広がり、今現在では増加傾向は弱まったが3桁を維持。



ウズベキスタン保健省が発表しているウズベキスタン国内の州別感染者・死者・復活者情報

感染状況：

保健省が発表している情報によると2020年9月6日現時点での感染者は43,663人、復活者41,277人、死者348人。上記のデータからも読み取れるように感染者・死者ともの約5割以上がタシケント州にあたる。

一般生活への影響：

感染状況の収束が見えないまま半年が経ち、人々はWith Corona生活に慣れてきていると言えるだろう。それは毎日の食材をバザールではなく、自宅まで配送サービスが出たり、オンラインでの授業、オンラインでの勤務そこしずつ環境がとと乗りはじめた。ウズベキスタン人の生活面で

の一番大きな変化は結婚式であろう。通常は500人、600人が参加するウズベキスタンの結婚式で



結婚式 With Corona (Zarnews.uz)

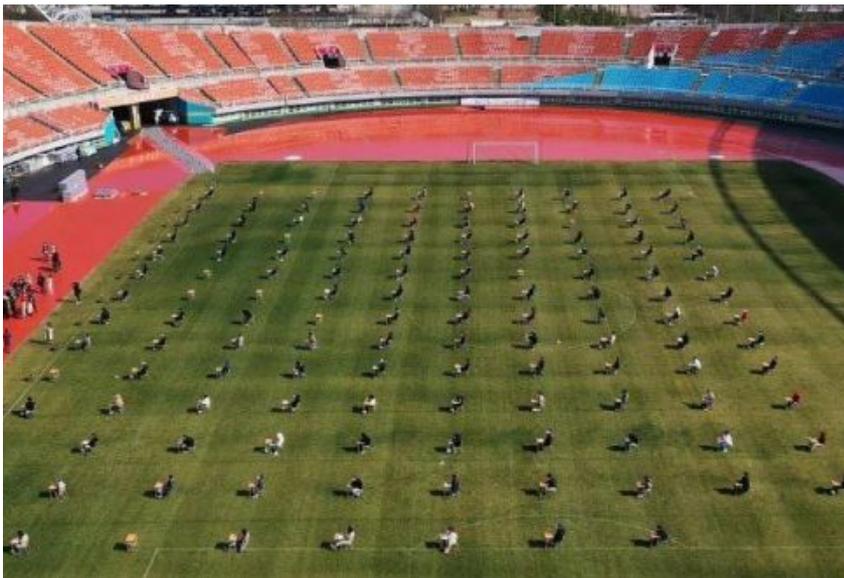
もコロナの収束を待てない。
30人限定の結婚式は通常化し
つつある

経 済 への影 響：

世界的に不況はウズベキスタンの経済にも影響を及ぼしている。輸出18%減ったこと、3月入ってから中小企業の85%がビジネスを止めざるを得なかった。徐々にロックダウンが緩和され、経済活動も復活して期待している。IMF

によるとウズベキスタンのGDPは1.8%成長した。このような状況下で低収入の家族を対象に政府から支援金が支払われた。また企業向けは免税措置が取られている。

コロナの前は経済の柱になると信じられていた観光業だが、大きな打撃を受けたままである。観光発展庁主催でオンライン観光やオンラインウズベク料理講座が開かれているが、実経済への還元はコロナ終息後にするだろう。そんな中ウズベキスタンの野菜や果物が輸出への期待が高まっている。こんな中100万人以上のウズベキスタンの若者は全国大学受験をスタジアムで受けた。



スタジアムでテストを受ける様子。

パンデミックは生活のあらゆる場面で困難を生じさせており、人々は一つひとつ乗り越えてきている。

この機会を用いサルルドバダム決壊から被害を受けた方々への日本のみなさんからの支援感謝する。まだ不透明な状況は続くが引き続き世界人口一体となって乗り越えていければと思う。